

2012年4月2日

～日本の母の日の本格スタートは75年前～

「母の日に贈るMARIE『お母さん、ありがとう』手紙コンクール」開催

マリーを使った手作りケーキレシピ提案&マリーを使ったケーキを新発売

森永製菓株式会社（東京都港区芝、代表取締役社長・矢田雅之）は、1937年の「第一回森永母の日大会」の開催や「母をたたえる歌」の懸賞募集など、様々な活動で「母の日」を日本に定着させました。そして、「第一回森永母の日大会」から75年経った2012年、母と子の絆を見つめなおすため「母の日に贈るMARIE（マリー）『お母さん、ありがとう』手紙コンクール」を開催します。

また、赤い箱の「MARIE」を使った母の日のコミュニケーションとして、手作りケーキのレシピ提案をホームページや店頭販促物で紹介します。さらに、半生ケーキ「MARIEを使ったガレットケーキ」を発売することで、母の日を活性化します。



「マリービスケット」



<販促イメージ>



「MARIEを使ったガレットケーキ」



手作りケーキのレシピ

【応募概要】「母の日に贈るMARIE『お母さん、ありがとう』手紙コンクール」

応募資格 小学生

テーマ ふだん言えない、お母さんへの感謝の気持ちを、100文字以内の手紙に書いて送ってください。

締め切り 5月28日（月）必着

詳細は 朝日新聞のウェブサイト「こどもアサヒ」(<http://www.asagaku.com>)

または、森永製菓のウェブサイト (<http://www.morinaga.co.jp>) をご覧ください。(4月1日アップ予定)

【商品特長】

「MARIEを使ったガレットケーキ」

砕いたマリービスケットを生地に練りこんだほろっとしたガレットで、ほんのりチーズ風味のクリームをサンドした半生ケーキ。

【商品概要】

商品名	MARIEを使ったガレットケーキ	
種類別名称	洋菓子	ガレット (galette) とは
内容量	6個	フランスの料理・菓子の名前、
参考小売価格	オープン価格	「丸くて薄いもの」が起源
発売日	2012年4月17日(火)	
発売地区	全国全ルート	
ターゲット	ケーキ好きな30代～主婦とその子ども	
JANコード	4902888149887	

【日本での母の日の始まり】

母の日の誕生は、1912年(大正初期)頃にさかのぼります。アメリカのある田舎町に住むアンナという少女の母親が亡くなったとき、アンナは母親の追悼式が行われる教会を、カーネーションの花で飾りました。亡くなった母親は、一生を町の子どもたちに尽くした優しい人だったので、町中がこの母親を心に留める意味をこめ、母の日を定めたといわれています。この心あたたまる行事は、たちまちアメリカ全土に伝わり、数年のうちに世界中に広がりました。

日本でも全国各地のキリスト教会や婦人団体等が行うようになり、昭和に入ると一般でもいろいろな「母の日」が催されるようになりました。昭和6年に起きた満州事変をきっかけに世情が徐々に軍国調になっていくなかで、森永製菓は全国に心あたたまるこの行事を広めようと、昭和11年(1936)に「森永母を讃へる会」を作り、関係諸団体に呼びかけた結果、全国統一の「母の日中央委員会」が組織されました。また母をたたえる歌(歌詞)の懸賞募集を行った結果、15000点以上の応募があり、古関裕而により作曲されレコード化しました。

翌12年、同委員会の協賛を得て、「森永母の日」の行事を全国規模で展開することになり、記念すべき第一回「森永母の日大会」は、5月8日・9日の両日、東京・豊島園の野外ステージを舞台に開催されました。20万人もの母親を招待して盛大に行なわれた催しは新聞や雑誌に大々的に取り上げられ、日本に母の日運動を広める大きな力となりました。



東京豊島園で開かれた第一回「森永母の日大会」は、20万人のお母さんを招待して開かれた(昭和11年)



「母を讃へる歌」募集の新聞広告